

「友人」

北海道幕別清陵高等学校 1年2組 佐々木 希颯

私は友達をつくることがあまり得意ではなくて、高校に入学してから友達ができるかとも不安でした。私には、いつも人の顔色を窺って相手が今何をしたいのかとか、どんな気持ちなのかとか、つい考えてしまう癖があります。そのうえ人を信じるのが難しく自分が傷つくのが怖いから、本音で相手と話し合ったことがありませんでした。

でもある日、やっぱり自分の気持ちを押しつぶすことにも限界がきて高校に入学してから、学校で初めて泣いてしまいました。自分でもびっくりするほど涙が止まらなくて、話も出来ませんでした。「終わった。」ふと、そんな言葉が脳裏をよぎりました。周囲の友人が楽しく話している中、私が楽しい雰囲気を壊してしまった。「面倒くさいとか思われたかな？嫌われたかな？」ここでも物事を



悲観的に考えすぎてしまう私の悪い癖が出てしまいました。こんな状況になってしまってほんとに申し訳ないという気持ちでいっぱいでした。そんな中、友達の一人は私が落ち着くまで背中をさすってくれたり、私が好きなジュースを買ってきてくれました。本人は当たり前と思って私にしてくれた小さな気遣いが、私はとても嬉しかったです。

この時期、ちょうど学校祭の準備期間と重なっていました。私はその時、学校祭の係でリーダーを務めていました。リーダーのプレッシャーで気を遣いすぎ、緊張などから知らず知らずのうちに疲れが溜まっていたのだと思います。私は壺の水が溢れたみたいに、ずっと溜め込んでいた自分の気持ちを全部吐き出しました。もうどう思われてもいいと思って、自分の気持ちに正直に全部話しました。いろいろ悪い方に考えすぎてしまうこと、リーダーとしてしっかりまとめることができているか不安だったこと。そして、こんな状況になってしまって申し訳ないと思っていること。「呆れられちゃうな。みんな離れて行っちゃうな。」そんな私の予想は大いに外れました。みんな私に優しい言葉をかけてくれました。「考え過ぎることが悪いことじゃなくて、むしろそれはののかの長所だよ。ののかは、ののかのままでいいんだよ。またなんかあったらすぐに話すんだよ。」そう言われてとても安心しました。LINEで声をかけてくれた人もいて、みんなが私にかけてくれたあの言葉が、たとえ嘘だったとしても本当に嬉しかったです。私はこのとき、初めて人に自分のことをちゃんと話せたと感じました。

就職や進学、どちらの道に進んでも、自分の意見を述べなければいけない場面が必ずあると思います。そんな場面が訪れた時パッと答えられるようになるためにも今から少しずつ頑張っ、自分の意見を述べられるようにしたいと思っています。自分を成長させてくれる素敵な友人を持てたことをとても誇りに思っているし、これからもずっと仲良くしていきたいと思っています。